第五期北区子ども読書活動推進計画（案）に関するパブリックコメント実施結果

1. パブリックコメントの概要

- (1) 意見募集期間：令和6年12月10日（火）～令和7年1月15日（水）
- (2) 意見提出者数：3名（内訳：北区ホームページ3名）
- (3) 意見総数：65件 ※類似意見はまとめています。
- (4) 周知方法：北区ニュース（12月10日号）、北区ホームページ、北区SNS、
北区GIGAスクール構想1人1台端末用ポータルサイト
- (5) 閲覧場所：区立図書館、区政資料室、地域振興室、北区ホームページ

2. 提出された意見の要旨及びそれに対する区の考え方

(1) 第1章 計画策定の背景

No	意見（要旨）	区の考え方
1	そもそもこの計画が何なのかを冒頭に書くべき。	「第1章 計画策定の背景 / 1. 計画改定の趣旨」において、「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年法律第154号）第9条第2項の規定に基づき、北区における子どもの読書活動推進に関する基本理念と具体的取組みを示すために本計画を策定する旨を記載しています。
2	p1、「1. 計画改定の趣旨」の第1段落。「各計画に基づき、図書館～との連携のもと、～幅広く事業を実施し～」とあるが、事業を実施したのは誰なのか主語が書かれていない。主語が「北区」であるならば、庁内関係者とは北区自身であるから、記載として違和感がある。北区内の特定の部署が実施したのであれば、どこの部署なのかを記載したほうがよいのでは。	本計画の実施主体は北区ですが、特に中心となる組織を明示する趣旨として、当該記載としています。なお、各施策を実施する特定の部署については、「第3章 具体的な取組み」内の「■推進事業 / 所管課」に記載しています。

3	<p>p1、「1. 計画改定の趣旨」の第2段落。「本計画により、子どもの読書活動推進に関する基本方針と具体的方策を示すものです。」とある。しかし、本計画には、基本理念、計画の基本的な考え方、計画の性格、策定方針、施策の5つの柱などが書かれているが、「基本方針」なるものは書かれていない。そこで、「～策定しました。本計画は、子どもの読書活動推進に関する基本理念と具体的施策を示すものです。」としてはどうか。</p>	<p>ご指摘を踏まえて修正します。</p>
4	<p>p1、「2. 国の動き」の第1段落。国の基本計画の改定経過についての記載が冗長すぎると思う。1次から～5次まで改定経過を逐一書く必要はないのではないか。</p>	<p>p1「1. 計画改定の趣旨」、p4「4. 都の動き」における区及び都の計画策定経過と合わせて、国計画の経過を記載するものです。本計画の中で、国・都・区の各計画を把握できるようにしています。</p>
5	<p>p1、「2. 国の動き」の第2段落。「そして、この間～」とあり、「この間」とは、前段落の記載からすれば平成13年から令和5年までの間を指すと解釈できる。しかし、学習指導要領における「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。」という記載は平成10年の指導要領で既に存在している。したがって、「この間～」という記載は不適切。</p>	<p>学校図書館に関して、従前から学習指導要領に記載されていましたが、平成29年の改訂において「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること」とされる等、学校図書館等をどのように利活用することが求められるのかについて、より明確化されています。これらの状況を踏まえ、当該記載としています。</p>

6	<p>p1、「2. 国の動き」の第4段落。こども基本法が施行されたという記述に続いて、「子どもが主体的に読書活動を行えるように、子どもの意見聴取の機会を確保し、取組みに反映させることが求められています。」とある。これは、子ども基本法第11条の「地方公共団体は、こども施策を策定し、実施し、及び評価するに当たっては、当該こども施策の対象となるこども又はこどもを養育する者その他の関係者の意見を反映させるために必要な措置を講ずる」という規定を念頭に置いた記載であると思う。</p> <p>ただ、これは法律を踏まえて北区が何をしなければならないかという部分であるから、「国の動き」という項目ではなく、北区の対応についての項目の中で記載するべきである。(実際に、p4ではこども基本法を踏まえた北区の対応としてアンケートを実施したという部分で既に記載されている。)</p>	<p>本計画において、こども基本法は国及び北区に関連した記載であることから、p1「2. 国の動き」及びp4「5. 北区における子ども読書の傾向」の双方に記載しています。</p>
7	<p>p2～、学校読書調査は2024年の調査結果が既に公表されているので、表や本文の記載を最新のものに更新するべき。</p>	<p>本計画策定にあたっては、学校読書調査2023年の結果を元に検討しているため、策定段階の情報として当該結果を記載しています。</p>
8	<p>p2～、学校読書調査は毎年行われデータが更新される。この計画にも「デジタル社会進展への配慮」といった記載があるのだから、二次元コードから最新のデータにアクセスできるようにするなどの対応をするべき。</p>	<p>計画策定後に二次元コードの掲載リンク先が変更となる可能性があるため、紙媒体での配布も想定した本計画においては、二次元コードを掲載していません。</p>
9	<p>p2の最終段落。「学校図書館の利活用により児童・生徒の学習活動や読書活動の充実を図ることが規定された学習指導要領の改訂（平成29年3月改定）」とある。この記載からは、平成29年3月の改訂により、「学校図書館の利活用により児童・生徒の学習活動や読書活動の充実を図ること」が学習指導要領に規定されたと読める。しかし実際にはこの規定は改訂以前からある。平成29年の改定で追記されたのは、「(学校図書館の利活用について)児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かす」という部分である。</p>	<p>新たな規定ではなく、これまでの規定が改訂(明確化)された趣旨として記載しています。</p>

10	p3 では、図表の後に調査対象・調査時期等の説明がある。一方、p4 では調査対象・調査時期等の説明の後ろに図表が掲載されている。後者に統一するべき。	区民アンケートの分析結果をp4～p7 にまとめて記載する一覧性を考慮し、当該記載としています。
11	p4、「4. 都の動き」の部分。記載が冗長なので簡潔にするべき。「2. 国の動き」と「4. 都の動き」は統合して、「国及び都の動き」としてはどうか。	p1「1. 計画改定の趣旨」、p1「2. 国の動き」における区及び国の計画策定経過と合わせて、都計画の経過を記載するものです。本計画の中で、国・都・区の各計画を順序立てて把握できるようにするため、当該記載としています。
12	p4、「5. 北区における子ども読書の傾向」の部分。「こども基本法の施行を受けて、子どもの意見聴取の機会を確保し、取組みに反映させることが求められている」との記載は、同法第 11 条の「地方公共団体は、こども施策を策定し、実施し、及び評価するに当たっては、当該こども施策の対象となるこども又はこどもを養育する者その他の関係者の意見を反映させるために必要な措置を講ずる」という規定を念頭に置いた記載と思われる。ただ、現在の記載では若干意味がとりづらいので、「こども基本法では、子どもに関する施策を策定するにあたっては子どもからも意見を聞くことを求めています。そこで～」などとしてはどうか。	ご指摘を踏まえて修正します。
13	p4、「5. 北区における子ども読書の傾向」の2行目。「主に」がどこにかかるのか不明確。「小学校2年生～」にかかるのであれば、「主に小学校2年生～」とするべき。	本計画における区民アンケートは、区立小中学校及び義務教育学校に限定していません（p4 下段の注記のとおり）。そのため、「主に」は、以降の「全区立小中学校及び義務教育学校のうち、小学2年生・小学5年生・中学2年生」にかかる文言として、当該記載としています。
14	p5、図5の脚注。「学校読書調査」を「国の調査」といつているが、この調査の実施主体である公益社団法人全国学校図書館協議会を「国」と言っ てよいかは疑問。どちらかといえば国ではなく都道府県の連合組織ではないか。	当該調査の主体は公益社団法人全国学校図書館協議会ですが、文部科学省からの支援があり、かつ当該協議会においても、より公的な性格をもった調査を行うように検討・継続実施している状況を踏まえ、当該記載としています。

15	<p>不読率について、「学校読書調査」では、対象となる本を「教科書、学習参考書、漫画、雑誌以外のもの」としている。そのため漫画だけを読んでいる子どもは不読の対象となる。ただ、学習漫画は公立図書館や学校図書館にも多数置かれているし、子どもたちの人気が高いものも多い(たとえば、学習漫画サバイバルシリーズなど)。これらを読んでも「不読」の対象となってしまうのは妥当でないと思う。</p>	<p>不読率について、他の調査結果との比較を可能とすることを考慮し、漫画を対象外としています。なお、学習漫画等については、その有用性を踏まえ、今後も本の選定等を行っていきます。</p>
16	<p>p10、「7. 子ども読書推進の課題」</p> <p>小学生以降の不読率が高いようだが、北区は図書館と学校がしっかり連携をして読書推進に取り組んでいるところは素晴らしいと思う。学校図書館資料のデータベース化、学校図書館指導員の配置日数増、学校団体貸出など、今後も一層拡充してほしいと思う。</p> <p>一方、電子図書館の有効性が示唆されており、新たな読書機会の創出になるのかもしれないが、下記のリスクもあることに留意し啓発してほしい。特に低年齢期からの電子媒体の接触は回避してほしい。</p> <p>セキュリティ問題が生じるリスク/子どもの健康への影響/子どもの「書く力」や「自分で考え粘り強く取り組む力」が低下する恐れがある。</p> <p>ある北区立中学校では、始業前の10分間程度、クロームブックではなく、紙媒体の本で朝読書を推進している。それにより、気持ちを落ち着かせて授業へスムーズに移行できるそうだ。このような話を聞くと、今後は、電子媒体にない紙媒体の良さを積極的に伝えていく努力も必要かと思う。</p>	<p>引き続き、魅力ある学校図書館づくりを推進していきます。</p> <p>電子図書館の導入においては、デジタル化を主軸とする想定ではありません。大人との関わりの中で、紙の本に触れる機会は変わらず重要と考えます。図書館・学校・庁内関係部署との連携のもと、適切な周知に努めます。</p>

(2) 第2章 第五期北区子ども読書活動推進計画の基本方針及び概要

No	意見(要旨)	区の考え方
17	<p>p11、「第2章 第五期北区子ども読書活動推進計画の基本方針及び概要」というタイトルとなっているが、本文・図表中には、基本理念、計画の基本的な考え方、計画の性格、策定方針、施策の5つの柱などが書かれているが、そのどれが表題にある「基本方針」に該当するのか不明確。</p>	<p>ご指摘を踏まえて修正します。</p>
18	<p>p11、「1. 基本理念」。第1段落で背景事情が書かれ、第2段落では「このような背景を踏まえ、本計画では、「本で見つける未来」を基本理念とし」とある。しかし、第1段落で書かれている内容と「本で見つける未来」という基本理念とが繋がっていない。</p> <p>第1段落では、「幼い子供は自分で本を選べないから大人が適切な本を選択する必要がある」旨が書かれているが、これを背景事情として基本理念を定めるなら、「大人も関わる、子どもの読書」といった類のものになるはず。また、デジタル社会進展への配慮や不読率に課題といった旨が書かれているが、これらを背景事情として基本理念を定めるなら「デジタルとアナログの融合による不読率改善」といった類のものになるはずである。「本で見つける未来」という基本理念を掲げるための背景事情であるなら、「読書は人格形成に大いに貢献する。子供のころに読んだ本の内容でその後の人生が決まる。本の中には情報のみならず、あなたの未来が書かれている」といった趣旨のことが書かれていなければならないはず。</p>	<p>個別の取組みに紐づくものではなく、本計画全体を包括するものとして、当該基本理念を掲げています。異なる年齢・背景をもつ子ども達が、本と本を通した様々な関わりの中で成長し、それぞれの未来に繋げて欲しいという想いも込めて、当該基本理念としています。</p>
19	<p>p11、基本理念として「本で見つける未来」と掲げられているが、この「本で見つける未来」が第3章の具体的取組みにどのように関わっているのかが不明。この政策によりいかにしてこの理念を成し遂げるつもりなのかが記載されていない。単にこれまでの計画ともさほど変わり映えない政策を羅列しているだけのように見える。</p>	

(3) 第3章 具体的な取組み

No	意見（要旨）	区の考え方
20	<p>p14 のベネッセの研究を引用している箇所は直近の資料を用いて正確な引用を行うべき。「幼児期の読み聞かせ頻度の高さが、小学校高学年での読書頻度の高さにつながることを示されています。（ベネッセ教育総合研究所「幼児期から中学生の家庭教育調査・縦断調査」（2023年9月）」としたほうがよい。</p> <p>（参考）https://benesse.jp/berd/up_images/research/pressrelease_20230915_.pdf</p>	<p>ご指摘を踏まえて修正します。</p>
21	<p>p14、「1(1)①ブックスタート」。ブックスタート事業は続けてほしい。ただ、ブックスタートで初めて絵本と触れ合うか、それともブックスタートよりも前に絵本と触れ合っているかは家庭が決めること。そこで、「～ひとときを持つきっかけをつくる。」→「～ひとときを支援する。」としてはどうか。</p>	<p>本計画のとおり、ブックスタート事業を継続します。 なお、同趣旨であることから、当該記載のままとします。</p>
22	<p>p14、「1. 年齢・発達の段階など対象に応じた取組み」の第1段落。乳幼児期からの切れ目ない読書活動が継続されるように、とある。最近では、児童館や子どもセンターにて妊娠期の家庭を対象に子育て支援の事業を行うことを検討している。ブックスタートフォローアップ事業の対象にプレママパパを入れて啓発普及に取り組んでほしい。</p>	<p>次期（第六期）計画策定に向けたご意見として、参考にさせていただきます。</p>
23	<p>p15、「1(1)②ブックスタートフォローアップ」。ブックスタートフォローアップは続けてほしい。ただ、ブックスタートを本と親しむきっかけとするか、それともブックスタートよりも前に絵本と親しませるか家庭が決めること。そこで、「ブックスタートにより本と親しむきっかけ作りをしたあと、」→「ブックスタートで本をプレゼントした後も、」としてはどうか。</p>	<p>本計画のとおり、ブックスタートフォローアップ事業を継続します。なお、同趣旨であることから、当該記載のままとします。</p>

24	<p>p15、「1(1)④子育て施設での読書活動の推進」。乳幼児とその保護者にとって身近な施設である保育園・幼稚園・こども園・子どもセンター（児童館）・図書館において、子どもの成長に合わせた読み聞かせやおはなし会を実施することには賛成だが、ボランティアを派遣して事業強化をするだけではマンパワー的に頭打ちになることが想定される。絵本やおはなしをもっと身近に感じて保護者自ら絵本を手にとって子に読む習慣をつけるには、まずは子育て施設の職員に研修や学びの場を設けて子育てに絵本がとても有効であるなどの理解を進めることが重要だと思う。また、子育て施設の絵本蔵書の充実も必要だと思う。当該事業と合わせて、ぜひとも取り組んでほしい。</p>	<p>図書館・庁内関係部署との連携のもと、本計画の周知及び啓発に努めるとともに、職員に対する研修等については、次期（第六期）計画策定に向けたご意見として、参考にさせていただきます。</p>
25	<p>p16、「1(1)⑤3歳児絵本プレゼント」。本を介しての親子のふれあいがブックスタートから始まったとは限らないので、「ブックスタートから始まった本を介しての～」→「本を介しての～」としてはどうか。</p>	<p>本計画に紐づく事業の展開であることを踏まえ、当該記載としています。</p>
26	<p>p16、「(2)小学生を対象とした取組み / ■取組みの方向性」の第1段落。「乳幼児期に読み聞かせや読書活動の機会があったものの、小学校入学後に、不読率が特に上昇する傾向があります。」とあるが、そのデータが示されていない。</p>	<p>ご指摘を踏まえて修正します。</p>
27	<p>p16、「1(1)⑤3歳児絵本プレゼント」。ブックスタート配付率94.9%に比べて配布率74.5%と20%も低いのが気になる。これこそ対策と強化が必要だと思う。</p>	<p>3～4カ月乳児健康診査会場で直接手渡すブックスタートは配布率が高い一方、保護者が任意に図書館へ来館し受け取る3歳児絵本プレゼントは、配布率が低くなっています。より一層の周知・啓発を行い、配布率の向上に努めます。</p>

28	<p>p17、「1(2)①小学校新一年生への図書館案内」。区立図書館の利用 ID ときたコン※の利用 ID を事前に紐づけ、別途の申請をせずとも区立図書館の利用（延長申請、予約申請など）が可能な状態にして、新一年生にきたコンを配付するべきと思う。</p> <p>※きたコン：北区 GIGA スクール構想における1人1台端末の呼称（以下同じ）</p>	<p>システム連携は、多くのシステム改修及び運用・改修費用が伴うため、対応は困難ですが、ご意見として参考にさせていただきます。</p>
29	<p>p18、「1(2)⑦『どくしょノート』などによる読書活動推進」。どくしょノートは電子版も用意し、きたコンの個人IDと紐づけをして、きたコンで記入や管理できるようにしてほしい。</p>	
30	<p>p19、「1(2)⑨体験型イベントの実施【新規】」。主に小学生を対象として、読書に関連した体験型イベントを実施し、図書館への来館を含めた新たな読書機会をつくる、という企画だが、開催頻度や具体的な数値目標はあるのか。体験型イベントを実施することの効果や成果はどのようなものを想定されているか。</p>	<p>本事業は、本計画に係る区民アンケートから子ども達の要望を具体化するものです。子どもの図書館への来館機会を増やし、読書のきっかけを作ることを目的としています。開催頻度や具体的な数値目標等については、より効果的な方法を検討しながら、今後設計していきます。</p>
31	<p>p20、「(4)小中学生を対象とした取組み」の項目に、「学習系漫画の充実」という項目を追加してほしい。実態として児童館でも学校図書館でも学童でも、サバイバルシリーズなど学習系漫画が子どもたちに大人気になっている。これらの本は大人が読んでおもしろいし内容も有意義であり、非常におすすめできる。ついては、「学習系漫画の充実」を特記してほしい。漫画をおすすめすることについては反対意見もあろうが、北区ではそこを一步踏み出して記述してほしい。</p>	<p>学習漫画等については、現在も区立図書館や学校図書館を含めた各施設で配架しています。今後もその有用性等を踏まえ、蔵書の充実の一環として本の選定を行っていきます。ご意見として参考にさせていただきます。</p>

32	<p>p22、「1(4)⑥学級文庫の充実」。学級文庫が充実しているのとしていないのとを単純に比較すれば充実しているほうが良いと思う。ただ、その本はどこから持ってくるのだろうか。学校図書館から持ってくるのだとしたらその学級以外の子どもが読む機会を奪われてしまうのでは。人気の本は学級数だけ用意するというにすることにするのも効率さに欠けると思う。そこで、電子図書館推進の一環として、きたコンを通じて学級文庫を作成し、きたコン上から書籍を閲覧できるようにしてほしい。</p>	<p>リサイクル本を活用する等、各学校の実情に応じて取り組んでいます。今後、電子図書館の導入において、きたコンを活用し、より多くの児童・生徒が手軽に本を読むことができる効果的な環境の構築を目指し、検討を行います。</p>
33	<p>p22、「1(4)⑨新聞大好きプロジェクト」。新聞に書かれている情報の重要性や書かれている情報から社会の出来事などに興味関心を持たせることと、「新聞が大好きか否か」とは別の問題である。そのため「新聞大好き」というタイトルには疑問がある。そこで、「新聞活用プロジェクト」などとするべき。</p>	<p>当該事業は令和6年度で12回目の開催となり、区内の学校において取組みが浸透しているため、事業名は変更しません。</p>
34	<p>p24「(5)中高生(YA)世代を対象とした取組み」に、「ライトノベルの充実」という項目を追加してほしい。実態として区内の図書館にはライトノベルが多数置かれている。また、今年のビブリオバトルのチャンプ本には、ライトノベルの中のライトノベルといっても言い過ぎではない本が選ばれた。ライトノベルの充実に対する意見もあるのかもしれないが、そこは北区として一歩踏み込んで「ライトノベルの充実」を追加してほしい。</p>	<p>本計画では、個別のジャンルまでの記載はしておらず、ライトノベルについてはp24「1(5)①YAコーナーの充実など」に含めています。ご意見として参考にさせていただきます。</p>
35	<p>p26「1(6)⑤外国人児童・生徒へのサービス」。同時期にパブコメが行われている「北区多文化共生指針」では、「外国人」ではなく「外国籍区民」、「外国籍等区民」といった用語を用いているので、そろえたほうが良いと思う。</p>	<p>本計画では、わかりやすい表記として、当該記載としています。</p>

36	p26、「1(6)⑤外国人児童・生徒へのサービス」。「十数か国語の資料を整備している」とあるが、同時期にパブリックコメントが行われている北区多文化共生指針では、人力での翻訳のみならず自動翻訳アプリなどのICT機器をこれまでよりも積極的に活用することが述べられている。本計画でもその旨を書くべき。	本計画では、活字を読む取組みを主としているため、自動翻訳等のICT機器の活用についての記載は想定していません。
----	---	---

(4) 資料編

No	意見（要旨）	区の考え方
37	p34、「【資料編】」。委員会設置要綱や子どもの読書活動の推進に関する法律の条文を載せる必要性は薄いと思う。というのも、それらを載せるのなら、「読書バリアフリー法の条文はなぜ載せていないのか。」「国の読書計画は載せないのか。」「都の計画は載せないのか。」と、載せる・載せないの判断基準が曖昧になる。本計画には「デジタル社会に対応した環境を整備」とあるのだから、本計画に直接記載するのではなく、二次元コードを貼るなどしてこれらの条文にアクセスできるようにするべき。	北区子ども読書活動推進計画検討委員会設置要綱は、本計画の検討体制を広くお示しするものとして記載しています。また、子どもの読書活動の推進に関する法律は、本計画策定の根拠となる重要なものとして記載しています。なお、計画策定後に二次元コードの掲載リンク先が変更となる可能性があるため、紙媒体での配布も想定した本計画においては、二次元コードを掲載していません。

(5) 計画全体について

No	意見（要旨）	区の考え方
38	電子図書館の導入については、是非とも推進してもらいたいので検討にとどまらずさらに踏み込んだ記載が欲しい。事業の1つとして記載するにとどまらず、柱の1つとして格上げするべき。その上で具体的な目標を記載してほしい。たとえば、「きたコンを通じて閲覧可能な書籍を1万冊まで増やします」、「学校図書館の本は全てきたコンから読めます」、「学校で使っている教科書は全てきたコンから読めます」などの目標を立ててほしい。区長が主導しなければ実現しえない施策であると思うが実現してほしい。	事業者が提供する電子図書館サービスによって、ライセンスや費用の取り扱い、システム環境等が異なっているため、現時点で個別の目標値をお示しすることは難しい状況です。今後、費用対効果を含めた最適な環境を検討してまいります。 また、本計画においては、複数の施策を柱の1つとして掲げていることから、電子図書館については、5つの柱の1つである「年齢・発達の段階など対象に応じた取組み」に含めることとしています。

39	<p>p1、「2. 国の動き」の第3段落で読書バリアフリー法施行について記載されている。同法第8条は、「地方公共団体は、基本計画を勘案して、当該地方公共団体における視覚障害者等の読書環境の整備の状況等を踏まえ、当該地方公共団体における視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画を定めるよう努めなければならない。」と規定しており、本計画での p25～では障害のある方に配慮した取り組みも掲げているのだから、本計画を読書バリアフリー法第8条に定める計画としても位置付けるべきだと思う。</p>	<p>視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（令和元年法律第49号 読書バリアフリー法 以下「当該法」）において求められている主な取組み（大活字本、点字図書、LLブック※1、布の絵本、DAISY※2等）の多くは、北区立図書館において既に取り組んでいます。ご指摘を踏まえ、当該法に係る位置付けについて、他の区関連計画との整合を図りながら、関係各課と十分な協議を行っていきます。</p> <p>※1 LLブック：やさしい言葉で分かりやすく書かれた本 ※2 DAISY：「Digital Accessible Information System」（アクセシブルな情報システム）の略称。デジタル録音図書。</p>
40	<p>一部の学校図書館などで中学受験向けの参考書を充実させているところがあるようだ。これには賛否もあるだろうが、北区は中学受験する子どもも多いし、中学受験用テキスト購入費用の捻出に難儀している家庭もあるだろう。また、受験参考書の充実で子供の学習が進むのであれば否定されるべきではないと思う。いっそのこと、「公立学校図書館に中学・高校受験向け書籍を充実させます」と明記するのもありだと思う。北区の公立小学校の先生で中学受験に否定的な方は少ないと思われ、学校現場からの反対もないと思われる。</p>	<p>文部科学省の「学校図書館ガイドライン」において、学校図書館長は校長であるとしています。学校図書館は、各校における学校経営方針の具現化に向けて運営されるものであるため、本計画において一律で学校図書館の蔵書構成を指定することは馴染みません。</p> <p>ご意見として参考にさせていただきます。</p>
41	<p>同時期にパブリックコメントが行われている他の計画等では、年を「平成17（2005）年」といった書き方にしているので、そろえたほうがよい。</p>	<p>第四期計画までの表記と揃えるため、当該記載としています。</p>
42	<p>現場にはこの内容が届いていないと感じる。私は、小学校のゲストティーチャーとしてブックトークの授業やわくわく☆ひろばの放課後子ども教室で、読み聞かせ、ブックトーク、ビブリオバトルをやっている。この計画だと わくわく☆ひろばでも、読書活動を推進するとのことだが、現場のスタッフ（直営）には、読書活動の推進については何も連絡が来ていない。</p>	<p>図書館・学校・庁内関係部署との連携のもと、本計画の周知に努めます。</p>

43	子どもたちに関わる現場の司書教諭や先生方の意見を含め、この読書計画にも様々な思いが錯綜している。経済産業省がこの計画に関わっていることで、ネットやデジタルによる心身に与えるマイナスの影響、デジタルによる健康被害、幼い時に電子書籍を与えてしまうと紙の文字を読解できなくなる影響が、書かれていない。また、他国等でデジタルから紙の本へ方向転換しているケースもあり、デジタル化による子ども達への影響が懸念される。	電子図書館の導入においても、デジタル化を主軸とする想定ではありません。大人との関わりの中で、紙の本に触れる機会は変わらず重要と考えます。図書館・学校・庁内関係部署との連携のもと、適切な周知に努めます。
44	きたコンは数年後に更新が予定されているため、新端末配付の際は区立図書館の利用 ID ときたコンの利用 ID を事前に紐づけ、別途の申請をせずとも区立図書館の利用（延長申請、予約申請など）が可能な状態にしてから全生徒に配付するべきと思う。	システム連携は、多くのシステム改修及び運用・改修費用が伴うため、対応は困難ですが、ご意見として参考にさせていただきます。

※上記のほか、誤記・体裁などについて修正しています。

(6) その他

以下のご意見につきましては、ご意見の主旨から本計画に関連したご意見ではなく、図書館運営等に関わる参考意見として承ります。

No	意見（要旨）
45	月曜が祝日と重なる日が多いので、区立図書館の休館日は月曜ではなく別の曜日にしてほしい。
46	北区図書館活動区民の会について。この会が行っている活動はすばらしいし、この会との協働についての記載も必要だと思う。ただ、北区図書館活動区民の会は純然たる民間団体ではなく、北区からある種の特権を与えられている団体である。たとえば、北区の施設内に事務局を置くなら、本来であれば会から北区に対して家賃を払わなければならないはず。このような特権がダメというのではなく、むしろ逆であり、北区とボランティアとの協働の場として今度も活用して行ってほしい。ただ、この会は北区の方針に反するようなことを行うことはできず、実質的には北区が運営に関与している。つまり、「北区図書館活動区民の会との協働で事業を実施」といっても、実態は北区が実施している事業に対してボランティアに協力してもらっているものである（このことが不適切だということではない）。他方、現在の記載では北区が純然たる民間団体と協働しているように読めるため違和感がある。今後、「北区図書館活動区民の会」以外にも同様の活動を行う民間団体ができた場合、「なぜうちの団体には中央図書館内のスペースを事務所として貸してもらえないのか。」ということにもなる。そこで、実態として北区図書館活動区民の会の運営には北区が関与していることを明記するべき。

47	数年前に、北区図書館活動区民の会に入って勉強したいと相談したが、研修を上級まで受けないと活動に参加できないと言われた。研修をこなさないと区民の会に入れないのは、壁を作られている気がする。ボランティアを増やすと書いてあるが、関わりたいと申し出た人たちを拒否している感じがする。
48	私は、車いすを使う障害者である。電磁波過敏症もひどく、Wi-Fiのある図書館には入れない。でも、子どもと本が心から大好きだ。こんな障害を持ちながらも、北区の読書活動に関わりたい、子どもと本に関わりたいと心から思っている人間もいることを伝えておきたい。

第五期北区子ども読書活動推進計画（案）パブリックコメント実施時点からの修正箇所一覧

1. 全体的な修正点（主なもの）

修正内容
誤字・脱字等の修正及び文章表現の軽微な修正（個別の修正箇所では記載を省略）
図表の修正

2. 個別の修正箇所

頁	修正後	修正前
1	<p>「1. 計画改定の趣旨」の第2段落。</p> <p>このたび、国・都の動きや GIGA スクール構想をはじめとした社会の大きな環境の変化などを踏まえ、令和7年度から令和11年度を計画年度とする第五期計画を新たに策定しました。本計画は、<u>北区における子どもの読書活動推進に関する基本理念及び具体的取組み</u>を示すものです。</p>	<p>「1. 計画改定の趣旨」の第2段落。</p> <p>このたび、国・都の動きや GIGA スクール構想をはじめとした社会の大きな環境の変化などを踏まえ、令和7年度から令和11年度を計画年度とする第五期計画を新たに策定し、<u>本計画により、子どもの読書活動推進に関する基本方針と具体的方策</u>を示すものです。</p>
4	<p>「5. 北区における子ども読書の傾向」</p> <p>令和5年4月に施行された<u>こども基本法</u>では、<u>子どもに関する施策を策定するにあたっては、子どもからも意見を聞くことを求めています。そこで、本計画の策定にあたり、主に全区立小中学校及び義務教育学校のうち、小学2年生・小学5年生・中学2年生を対象に「北区子ども読書活動に関する区民アンケート（令和6年7月）」を実施しました。</u></p>	<p>「5. 北区における子ども読書の傾向」</p> <p>令和5年4月の<u>こども家庭庁設置、こども基本法の施行を受けて、子どもの意見聴取の機会を確保し、取組みに反映させることが求められていることなどを踏まえ、本計画の策定にあたり、主に全区立小中学校及び義務教育学校のうち、小学2年生・小学5年生・中学2年生を対象に「北区子ども読書活動に関する区民アンケート（令和6年7月）」を実施しました。</u></p>

11	第2章 第五期北区子ども読書活動推進計画の基本理念及び概要	第2章 第五期北区子ども読書活動推進計画の基本方針及び概要
14	「(1) 乳幼児を対象とした取組み/■取組みの方向性」の第1段落後半。 幼児期からの読み聞かせは、不読率の低減にも有効な取組みとなります(ベネッセ教育総合研究所による「幼児期から <u>中学生</u> の家庭教育調査・縦断調査」(2023年9月)より)	「(1) 乳幼児を対象とした取組み/■取組みの方向性」の第1段落後半。 この乳幼児期からの読み聞かせは、不読率の低減にも有効な取組みとなります(ベネッセ教育総合研究所による「幼児期から <u>小学4年生</u> の家庭教育調査・縦断調査」(平成31年2月)より)
16	「(2) 小学生を対象とした取組み/■取組みの方向性」の第1段落。 乳幼児期に読み聞かせや読書活動の機会があったものの、小学校入学後、 <u>学年が上がるにつれて不読率が上昇する傾向があります。</u>	「(2) 小学生を対象とした取組み/■取組みの方向性」の第1段落。 乳幼児期に読み聞かせや読書活動の機会があったものの、小学校入学後に、 <u>不読率が特に上昇する傾向があります。</u>